

1.17 のメッセージ

三木北高校の皆さん、おはようございます。教頭の島村です。

今日は「阪神・淡路大震災」から30年となります。1995年1月17日午前5時46分、阪神・淡路大震災が起きました。震源は兵庫県の淡路島北部。最大震度は7。神戸・阪神間や淡路島などで6434人が亡くなりました。

まずはじめに、犠牲となった方への哀悼の意を表し、全員で黙祷を捧げたいと思います。皆さん、起立してください。

———黙祷———

ありがとうございました。着席してください。

私は当時教師1年目で、三木北高校へ出勤する朝、震災当日を迎えました。ここ、三木北高校では、自宅が倒壊して被災された先生もいらっしゃいました。当時のことを思い出すと、三木・小野の地にも、影響がありました。

発災時から刻々と亡くなられた人が増えており、一旦ご遺体を安置するために、神戸から小野市のある企業のホールにまで運ばれていたことは忘れられません。道路は、被災地へ向かう救助車や、物資・ガレキ・土砂を運ぶトラックなどでいつも渋滞していました。学校では、センター試験を終えた受験の時期で、無事に受験を進められるのかと心配しながら日々を送っていました。

震災直後の北高生は、自分たちでできることはないかと考えて、三木市内には全国から届く支援物資集荷所がありましたので、そこで、物資の仕訳ボランティアに行ったことを覚えています。

さて、皆さんの手元には、担任の先生から、「1. 17は忘れない」というプリントが配られていますか。

そこには、震災当時、神戸で懸命に災害救助にあたった消防士の方の想いがつづられています。詳しくは後で読んでください。最後の4行に、

「災害を止めることはできないかもしれないが、その時どうすることが最善なのか、どう対応すべきなのかを準備することはできる。」

とあります。

近い将来には、首都直下や南海トラフ巨大地震等、大きな災害の発生が危惧されています。今や災害はどこで起きても不思議ではありません。

過去の災害の教訓に学び、「不慮の災害にどう備えるのか」という問いに対する答えをみんなで共有し、今ある命や周りの人とのつながりを大切に考えてほしいと願っています。

以上で放送を終わります。

